

電子情報ボードを使って「できる」「わかる」授業

－ 基礎学力の育成を目指して －

宮崎県三股町立勝岡小学校 教諭 渡邊 光浩

nabe@3216.info

キーワード：基礎学力、国語、算数、学校間交流、TV会議

1. はじめに

「自信がない」「何を言っているかわからない」などの理由から、人前で話すことに苦手意識を持つ児童は多い。また日記等の文章は、様子や気持ちをくわしく表せていないなど書く力が十分身につけているとは言えない。更に学力検査等の結果を見ると、伝え合う力に限らず算数等、本校児童の学力は全国平均を下回るという実態があった。

学校の機器整備状況として、校内 LAN が無線を使って整備されているものの、アクセスポイント設置場所である職員室と教室は校舎が離れているため、電波状態が良いとは言えない。またプロジェクトが学校に 1 台しかなく使いたいときにいつでも使えるという状況ではなかった。

そこで、電子情報ボードを日常的に活用して、基礎学力の育成を図ることにした。電子情報ボード以外の機器やソフトウェアに関しては、特別高価なものなどを準備しなくてもできるようにし、IT をあまり活用したことのない人でも、「これならできそう」と感じてもらえるような実践を目指した。



写真 1 スピーチ発表

2. 実践の概要

(1) 国語科学習を中心に伝え合う力を高める

○ TV 会議を使って他校との交流を行い、話す力・聞く力を高める。

3～4名ずつの班で、国語の時間の 20 分程度を使って、テーマに沿ったスピーチを相互に発表し合い、質問や感想を交流するという活動を、週 2～3 時間程度継続して行った。また話を聞く際、話題や話し手の一番伝えたかったことなどをメモさせるようにした。OKBuddy (<http://www.okbuddy.jp/>) というポートやプロキシに関係なく使用できるフリーの TV 会議システムを使った。(写真 1)

○ 「今日のできごと」の発表で書く力と話す力を高める。

2名ずつの当番制で、Web 学級日誌(パディコミュニケーション)というソフトを使って毎日 PC で日誌をつける。その中の「今日のできごと」という写真+文章の欄を帰りの会で紹介させるようにした。また当番が 1 巡するごとに、日誌の文章がよいと思うものに投票させ、チャンピオンを決めるようにした。(写真 2)



写真 2 日誌コンテスト

(2) 算数科における「量と測定」「図形」の指導の充実を図る

○ 「三角形の面積」「円周と円の面積」単元で教科書指導書付属のソフトを使って、指導の充実を図る。

「わくわく算数」(啓林館)教師用指導書に、「デンカケ 2」というソフトが付録として付いている。このソフトは教科書の問題やその解き方、まとめなどをそのままデジタルコンテンツとして提示できるものである。このソフトを使って指導の充実を図った。特に「量と測定」「図形」領域では、児童の視覚に訴えることで指導の効果が上がりやすいと考え、重点的に電子情報ボードを活用した。(写真 3)

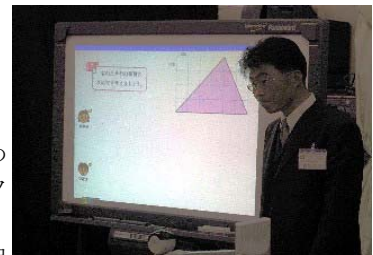


写真 3 問題提示(デンカケ 2)

3. 成果と課題

(1) 伝え合う力を高める

話す力・聞く力に関する児童の自己評価を 1 月に行った。3: よくできている, 2: まあまあできている, 1: まだできていないという 3 段階評価で、話す力、聞く力とも平均が 2.2 であった。指導者側も、声の大きさや話す速さなどの力の伸びを認める。ただし、話の組み立てなど、指導が十分でなかったところもある。

書く力に関して、日誌のできごとの文章の文字数の平均は、7 月が 61 文字、12 月が 101 文字である。単に文字数が増えただけではない。様子や気持ちなどを詳しく書けるようになってきた。

(2) 「量と測定」「図形」の指導の充実を図る

算数の授業に関するアンケートで、児童は電子情報ボードを使った方が分かると感じている(0～4の5段階評価、「先生の話が分かったか」で、使う授業が 3.2、使わない授業 2.9)。また 11 月に行った面積の単元では、ペーパーテストを実施した結果、全国平均 82 点のところ、94 点という平均であった。